



# 善正寺だより

掲示板法話

## 生物は皆祖先を同じくする仲間

### 危機は「縁に目覚めるチャンスである

新しい年を迎えて、早くも一カ月が過ぎました。ある評論家は「ホームレス(住まいを失った人)が増え続けるこの社会はホープレス(希望のない)社会である」と言いました。確かに、東京の日比谷公園に「年越し派遣村」なるものが出現、お正月早々派遣切りと共に住まいまで失った人々が食を求めて長蛇の列を作るなどということが経済大国・日本でこの時代に起こるとは夢にも思わなかったことです。

しかし、その緊急事態に対して、炊き出しをして食事を提供したボランティアの方々があり、それが厚労省を揺り動かす、自治体が緊急雇用するという工夫もなされています。根本的解決には程遠いとしても頭の下がる思いです。今まで人手の集まらなかつた林業や農業を志す人も出てきたなど新たな萌芽も見られます。地球環境問題や食の安全意識の高まりから国内産への需要が拡大しているのも追い風です。ピンチは新たなチャンス。希望はあるのです。

先日、生命科学者として著名な中村桂子さん(生命詩研究館館長)が中日

新聞・文化欄に「仲間意識を大切に」という興味深い随想を寄せています。

「生命科学で確実に言えるもの」とも大切なことは、地球上の生物はすべて、DNAを基本物質とする細胞でできており、祖先を同じくする仲間だということである。…違いよりも同じであることの方が浮き彫りになっている。「ヒト」という種は一種しかない。…誰もがヒトとして生まれたか」ときに眼を向けると、一つの種の中での違いなど大したことには見えない。…まず同じという基盤に立ち、その中にある多様性を評価し合うこと。今年はその視点を持ち、無用の競争や紛争から自由になろうではありませんか。」

「生物は全て祖先を同じくする仲間」という科学者の言葉は、民族・人種や宗教の違いによって殺戮を繰り返す世界や派遣切りで生きる寄り返す世界の人たちを救いたいという願いが込められています。その言葉はブッダの目覚めを地球上の生物に限定して言い換えたものとも言えるでしょう。

一九二〇年代、日本も昭和の大恐慌に



〒:512-0902  
三重県四日市市  
小杉町1014  
浄土真宗  
本願寺派  
善正寺  
TEL:0593-31-1670  
TEL:0593-32-0733

### ☆行事ご案内☆

#### ◇2月の門信徒会例会

#### 2月15日(日)夜7時半より

- ① 拝まらずにおれない尊い言葉の数々を紹介。
  - ② 4月の総代・世話方選挙日程等相談、打合せ。
- ☆2月15日は、「涅槃会」(ねはんえ;お釈迦さまが涅槃(燃える火が静かに消えていかれたという意味)に入られた日)です。

#### 予告<3月の行事予定>◇永代経(久堀勝敏師・奈良)

21日(土)午後1時半・夜7時半、22日(日)午後1時半  
※お経開きは21日(土)午前10時半

#### ◇三全仏教婦人会総会:20日(金)夜7時 善正寺

#### ♪三重組コーラス♪

※2/13(金)午前10時半・陽光苑誕生会慰問25回目  
※2/21(土)夜7時半練習、御堂演奏会の曲

#### ◇キッズサンガ

2/7(土)午後4時お経・ゲーム・お菓子誰でもOK

#### ◇一縁会テレホン法話059・354・14543分間法話聞けます

善正寺ホームページ「三重 善正寺」で検索『新着情報』

『住職と坊守のつれづれ日記』おススメ!ほほ毎日更新。  
何でもご相談お気軽に。仏事以外のことで結構です。お返事します。

苦しんでいました。その時代に庶民の相互扶助の仕組みとして誕生したのが、無尽とか頼母子講という組織です。敗戦後の苦難の時代もご先祖方は親戚縁者、隣組同士助け合って危機を乗り越えたのです。経済はいつか浮上します。しかし、人間社会の崩壊こそ、重大問題なのです。「自己中」という時代の闇を破る仏さまの眼を取り戻したい。二月十五日はそのお釈迦さまのお亡くなりになった日、涅槃会(ねはんえ)です。

#### キッズサンガ・杉の子合唱団

#### ◇二月七日(土)午後四時より

お経・ゲーム・紙芝居など。お友達誘って来てね!



夜のアトラクション「琴演奏」



☆報恩講風景(上・多彩な精進料理写真)

☆にぎやかな元旦会のお参り風景☆

坊守スケッチ

オバマ人気と蓮如上人の「講」から学ぶ

アメリカのオバマ新大統領が、世界の注目を浴びて就任した。百年に一度という世界的経済危機の中で、オバマ新大統領に寄せる改革の期待は大きい。彼の魅力は、分かり易い言葉で訴えた演説ではないか。「チェンジ(変革)」「イエス、ウィキャン(そうできる)」「ウィー、アーワン(我々は一つ)」など、希望を失いかけた民衆の心を掴むにはピタリという言葉である。肝心なことはそれをいかに実行するかだ。多くの利害関係の絡む中で、その舵取り役を果たすのは大変なことだ。オバマ氏とて人の子。プレッシャーに押しつぶされそうになるだろう。それを支えるのが補佐役の協力や家族の存在。日本の景気回復もオバマ頼みの所があるが、環境・エネルギー等独自の路線を模索した方が賢明。なぜならアメリカの視線は、日本を通り越して、中国に向けられている。過去の因縁から尻尾を振った忠犬には成り下がるべきではない。異常な期待が失望に変わる「オバマショック」が全世界を駆け巡る時が来るかもしれない。

とここで浄土真宗でも、流転の歴史を重ねた強力なリーダーが存在した。その筆頭が蓮如上人である。五十一歳の時、蓮如の布教の成果を妬んだ比叡山が、本願寺を屈辱的に破壊した。その時蓮如は「寺を残すだけが親鸞の教えを残すことではない。妻子を連れて逃亡生活に入ろうとも、行く先々で布教し、底辺に生きる人々に生きる希望を与えることができるならば、これこそ信仰の中で親鸞の教えが再興されることではないか」と決意した。

つまり『発想の転換』である。六年に及ぶ逃亡生活の中で、彼の布教は社会を読み、人の心を読み、時代を読んだ。最も求められているものを、常にアイデアを生かしながら提供した。その一例として「講」の存在がある。講の当日は茶菓や酒を持ち寄せ、正信偈や御文章を読み、皆の苦労話や思存分話させた。また歌、踊りの娯楽的要素も取り入れた。ただ働いただけで先の希望も無かった当時の人々には、楽しみながらストレスを発散させて、生きる糧を与えたことは画期的な「発想の転換」と言えよう。「講」は権力や身分、男女に関係なく、誰でも温かく迎え合い、本音で語り合い、戦国時代の人々の孤独で不安な心に、生きる喜びとエネルギーを与えた。本願寺という大きな建物を失うことよりも、一人一人の心の中に、もっと大きな「本願寺教団」が再生・再興された。

世界的大不況の中で、希望を失いかけた現代人や、沈滞したお寺の現状を目の当たりにして、オバマ氏のような強力なリーダーの出現を望み、蓮如上



人のような現代版「講」の実現に向けて、私にできることを考えたいと思う。

☆寄稿

四日市市 川崎 孝一

☆こころと 長短追い抜く 秒針が老いのすぎわい 僅かと急がすがに

☆遠望の 鈴鹿連峰 寒に入り

☆雪は止み 朝事の読経 終る頃 内陣明かす 陽の差し入りて

☆温温の ストープ五基に 迎えられ 朝勤の今日は 宗祖御命日

四日市市 釈 弘 蓮

☆み仏の 溢れる慈愛を受けながら まだまだ足りぬで 生きてゆく

四日市市 伊藤 孝一

☆声弾む 異国に住む子の 初電話

四日市市 A O

☆仏恩に 救はるる 身を思う時

みぞれの中に 水仙の咲く

三重組コーラス

※二月十三日(金)午前・陽光苑慰問

※二月二十一日(土)夜七時半 練習

第三土曜です。お間違いない！

(その後の練習予定)

※三月二十八日(土)夜七時半

※四月二十五日(土)夜七時半

「2009 御堂演奏会」(十一月二十二日)に五十五名が申し込まれました。

☆カンパ有難う☆

富田和代様・YH様・大林ゆきの様 森ふさ様・藤井義明様・栗本洋子様・大久保紀代子様・加藤由紀子様・伊藤しづ子様・桜井様・岡本統輔様・前田正子様・矢田たず様・TG様・TI様・TT様・島本邦子様・澤田美智江様他匿名様。

☆ホットニュース☆

☆善正寺のホームページが公開！仏事に関する相談、お悩み等気軽にお寄せ下さい。「三重 善正寺」で検索可。

※「住職と坊守のつれづれ日記」がおススメ、好評！ほぼ毎日更新。過去の日記も右横にある Archives(アーカイブス)2008。該当月をクリック。カレンダー方式で出てきます。おかげさまで開設五か月、一月下旬でアクセス数が四千回を突破！今までお寺と縁がなかった方や若者、子供の訪問に感謝。

◇庫裡玄関脇に「夫婦橋の木」を寄贈 報恩講前日、館耕司様一家により植樹

お悔やみ申し上げます★

★田中和子様(東新町・七十歳・一月十六日亡)

☆編集子より☆

「善正寺だより」第一八二号をお届けします。◇未曾有の経済危機で迎えた新年、「温故知新」を披露した。◇戦後ガールド下の靴磨き孤児がいた。現代のホームレス。「おじさん、僕の磨いた靴にはお星様が映るんだ！」と叫んだ少年に感動をもらった。◇少年の眼の輝きを彷彿させる。現代に輝きの復活を！

一年中で一番寒い季節となりました。報恩講過ぎに風邪を引き、仲々治りません。ゆくり寝れる環境にないのが原因です。少しの時間を見つけてウトウトしていると、幼き日の夢を見ました。5才の頃、母は過労から腎臓病になりました。人の出入りの多い商家だったのでゆくり休むことも医者に通うこともできませんでした。幼い私に医者への薬もらいを頼みました。道すがら何回も暗唱して医者に向いました。待合には大人達が「よう来たよう来た、えらいなあ、親孝行だ」と誉めてくれました。私はそのお使いが大好きでした。

小さい頃はそのお使いの思い出だけでしたが、先日報恩講のご法話(大畠信隆先生)を聞いて「ハッ」と気づかれました。「母は私一人の為に病気の体を辛抱して耐えていたのではないか」ということを、「こういう風に思えるようになったのは大畠先生から」「南無阿弥陀仏の心には二つの意味がある。一つは親の願いが子に届くこと、もう一つは子が親を慕う心」とお聞かせ頂いたからです。「仏法を聞いて何のご利益がある?」と言う人がいます。本物の仏法は合格祈願のお守りのような都合のよい即効薬ではありません。「南無阿弥陀仏を唱うれば、この世の利益さわもなし」と親鸞さまが言われたようにどんな状況に置かれても大丈夫と、生きる自信と勇気を呼び起こしてくれるものです。三重組コーラス二月練習日は第三土曜(25)夜お間違いなまきように、皆様のご参加お待ち申し上げます。

合掌

平成二十一年二月 善正寺坊守 拝